

特集

救急救命

～みんなで命を守ろう～



岡山自動車道で行われた多重交通事故発生を想定した合同訓練の様子（8月4日）

9月9日は「救急の日」です。
 今月号では、市消防署管内の救急出動状況や日ご
 ろの訓練の様子などを紹介し、皆さんの救急救命へ
 の理解を深めていただければと思います。

市消防の状況

【業務体制】

本市の消防は、昭和41年に消
 防本部と消防署が設置されたの
 が始まりです。
 消防職員は、一般管理事務、
 消防団事務、予防行政事務など
 の仕事をする消防本部（毎日勤
 務者・職員数11人）と、消防署
 （交替制勤務者・職員数53人）
 がいます。なお、高度な救急処
 置を行える救急救命士は現在13
 人います。

の24時間勤務の交替制で、第1
 係と第2係の2交替制になって
 います。業務は、火災・救急・
 救助やその他の災害活動を担当
 するほか、諸計画の作成、各種
 の訓練などを行い、災害発生時
 に備えています。

【救急出動件数・種別】

平成21年中の管内における救
 急出動件数は1617件、搬送
 人員1557人で、1日平均4
 件を超える出動件数になってい
 ます（表①）。
 平成20年と比較すると、救急
 出動件数46件、搬送人員32人の
 増加となっています。

出動種別

救急出動件数1617件を事
 故種別ごとにとみると、第1位が
 急病773件で全体の47・8%
 を占めています。以下、転院4
 40件（27・2%）、一般負傷
 191件（11・8%）と続き、
 交通事故は138件（8.5%）で
 第4位となっています。

ドクターヘリの搬送件数

次いで、成羽地域231件
 （14・3%）、備中地域110
 件（6.8%）、川上地域106件
 （6.6%）、有漢地域69件（4.3%）
 の順となっています。
 ドクターヘリは、救急医療用
 の医療機器等を装備したヘリコ
 プターで、救急医療の専門医や

地域別出動件数

地域別にみると、高梁地域が
 1091件で全体の67・5%。



高度な救急処理を行うために必要な構造や設置を備えた高規格救急自動車

表① 平成21年 地域別の救急出動状況

種別	出動件数 (件)	搬送件数 (件)	搬送人員 (人)
区分			
高梁地域	1,091	1,039	1,049
有漢地域	69	68	69
成羽地域	231	224	228
川上地域	106	99	99
備中地域	110	100	104
岡山道	5	3	3
その他の地域	5	5	5
合計	1,617	1,538	1,557

表② 地域別のドクターヘリ
 傷患者搬送件数 (件)

	H20	H21
高梁地域	22	21
有漢地域	7	3
成羽地域	17	4
川上地域	7	5
備中地域	4	5
その他	0	1
合計	57	39

看護師などが搭乗して救急現場
 に向かい、現場から医療機関に
 搬送するまでの間、患者に救急
 医療を行うものです。
 県内では、川崎医科大学附属
 病院高度救命救急センター（倉
 敷市）が、県の要請を受けてド
 クターヘリ導入事業を実施して
 います。同救命救急センターか
 ら高梁市内までは約10分で到着
 します。

市のドクターヘリの搬送状況
 は表②のとおりで、生命に危険
 が切迫している患者などの生命
 を救っています。

ドクターヘリの要請は、医師
 や救急隊員の判断となるほか、
 119番通報時に広範囲の熱傷

【訓練】

消防署では、災害に備え、日
 ごろからさまざまな訓練を行っ
 ており、その一部を紹介します。

多重事故想定合同訓練

高速道路無料化の社会実験に
 伴い、岡山自動車道の交通量が
 増加しているのを受け、8月4
 日、県警高速道路交通警察隊や
 高梁警察署などと多重衝突事故
 を想定した合同訓練を行いました。

高梁サーブিসエリアの一部を
 高速道に見立て、多重事故で車
 内に閉じ込められた負傷者を消
 防署員が救出。同サーブिसエリ
 ア（下り線）のヘリポートから
 県の消防防災ヘリで病院へ搬送
 するというもので、各関係機関
 の連携の強化を確認しました。